



**「CodeBeamerは、企業レベルのプロジェクトライフサイクル管理ソリューションであることが証明されました。Intlandの顧客サポートは非常に迅速で、RT Logicが改善・機能強化のために提案されるどんなことでも素早く対応してくれます。RT LogicはIntlandとの提携が優れた選択であったと思います。」**

**- James Sullivan, 開発エンジニア**

1997年に7人の起業家のエンジニアによって創立されたRT Logicは120人の従業員に成長し、宇宙開発産業用の革新的製品を提供する業界リーダーになりました。この10年間の着実にエキサイティングな成長の間、RT Logicは多くの挑戦に直面しました。材料および欠陥の検出から有効なソースコード管理と文書管理まで、RT Logicは、常に正面から挑戦に取り組み、直接的で拡張可能かつスケーラブルなソリューションを求めています。

2004年に、70人の従業員を抱えるRT Logicはそのビジネス・モデルにおいて転換点に直面していました。小さな会社と考えるにはあまりにも大型で、大企業と呼ぶにはあまりにも小さく、その資産および知的財産権に対する十分な管理を提供しながら、その敏捷なシステム開発ライフサイクルの邪魔にならないように、RT Logicには値段が手頃な企業規模のソリューションが必要でした。

最初、社内にCVSとBugzillaを有するRT Logicは、統合の欠陥トラッカーを内包するソースコード管理ツールを探しました。私達はGForge (SourceForge Enterpriseのオープンソースブランチ)を評価しました。これを使って2、3のプロジェクトを配信するうち、その機能が現在の技術に後れを取っていることを発見しました。またアプリケーションは、インストールが面倒なものでした。さらに、GForgeはCVSにしか対応しておらず、一方RT Logicはソースコード管理のためのSubversionに移行中です。

私達はまたTracを統合化のソリューションと考えました。使用中のLinuxサーバの上のパッケージとしてしばしば配布される、このツールのインストールはずっと容易でした。Wikiベースのページ編集機能は確かに利点でした。しかし、我々の評価プロセスにおいて、必要条件が多くなってゆきました。効率的な文書管理も、すべてのプロジェクト関連物とロールベースのプロジェクト許可の検索可能性と同様、優先事項になりました。例として、あるエンジニアは1つのプロジェクト上のリーダーであると同時に、別のプロジェクト上のチームメンバーであるかもしれず、プロジェクト許可にはこれらが反映されるべきです。

This article is translated from Continental Success Story with copyright of INTLAND GmbH.  
Translation is authorized by INTLAND GmbH

## Success Story

RT Logicは、2005年の秋までに商用ソフトのソリューションを決定することにしていました。この間、RT LogicはISO 9000認可対応の要件を追加しました。私達は当初、社内のオープンソース化のため、VA Solutions SourceForge Enterpriseを考慮しました。この後には、Rational ClearCaseの評価が続きました。両方の製品は、機能面で大変優れています。それぞれは素晴らしい社内でのインストールおよびセットアップのサポートを提供します。

しかし、3つの要因が最終的な結果を左右しました。一番目はカスタマイズ機能でした。双方とも有能である一方、RT Logicが必要としていた各プロジェクトのカスタマイズをサポートするには、双方は専用な人的資源が必要となります。専用な人的資源が2番目の要因でした。RT Logicの敏捷な作業環境のため、フルタイムのアプリケーション管理は操作が難しいのです。最後は、両方の製品の高い販売価格です。この3つの要因すべてを考慮し、RT Logicはさらなる候補者探しを続けることにしました。

RT LogicはJolt AwardsとSoftware Development Magazineを通してIntland's CodeBeamer協同開発プラットフォームを見出しました。評価バージョンをダウンロードするとすぐに、CodeBeamerはインストールの容易さ、SubversionとCVS等との統合化、高度のカスタマイズが可能なトラッカー、およびロールベースの許可により、注目を集めました。CodeBeamerのインストールは、Linuxマシンの上のバイナリファイルを実行し、インストール先ディレクトリ、メールホスト、およびポート番号を指定するという、シンプルなものでした。管理ガイド中の指示に従うことで、私達は直ちにCodeBeamerを設定して既存のLDAPインプリメンテーションを使用でき、従って当方ユーザの即時アクセスも皆可能となりました。

アプリケーションのカスタマイズも本当に直接的でした。内蔵トラッカーをガイドとして使って、私達はトラッカーを定義し、試験装置の校正、カスタマーサポートのフォローアップ、販売機会のためのスケジューリングが可能となりました。いくつかのテンプレートプロジェクト設定の後、私達はカスタマイズされたロール、許可、およびドキュメンテーション構造を有する新しいプロジェクトを迅速に作成することができます。Wikiベースのページにより、各プロジェクトマネージャは各プロジェクトページで提供される情報を定義することができます。このロールベースのアクセスにより、各プロジェクトマネージャは、誰が実行、文書編集、トラッカー項目の終了を行うかを決定できるようになります。

私達は、Intland によって提供されたJava API環境でプログラムすることによってCodeBeamerを拡張しました。トラッカーを更新する毎日のエンジニアへの備忘用スクリプトから上記テンプレートを使っているプロジェクトジェネレータまで、CodeBeamerがRT Logicの各プロジェクトを対象としたオールラウンドなプラットフォームとなりました。それで私達は使用しているCodeBeamerをプロジェクトポータルと名付けました。このプロジェクトポータルにより、新任のエンジニアでも提案書と必要条件から部品表と配達に至るまでのあるプロジェクトのすべての面において素早くペースに追いつくことが可能になります。RT Logicは現在CodeBeamerの中に108のアクティブなプロジェクトを有しています。

RT Logic は 2007 年 2 月に、ISO 9000 の年度継続認可用監査を受けました。

This article is translated from Continental Success Story with copyright of INTLAND GmbH.  
Translation is authorized by INTLAND GmbH